

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

- ・都市再生整備計画作成講習会の報告 P 1
- ・西富久地区第一種市街地再開発事業特定業務代行者
選定委員会の開催 P 3
- ・第12回 ACUUS 国際会議への参加 P 4
- ・会員紹介：西松建設株式会社 P 7
- ・機構の活動状況 P 8

§ 都市再生整備計画作成講習会の報告

都市再生整備計画講習会は、まちづくり交付金を活用し、地域の目標に沿ったまちづくりを効率的に推進することを目的として実施しております。

今回は、まちづくり交付金制度未実施の地方自治体職員を対象に、平成21年11月～平成22年1月にかけて、全国10箇所にて延べ10回開催し、約340名の職員が受講されました。



【研修会開催日程】

開催地方	開催日時	開催地方	開催日時
四国	11/10	北陸	11/30
九州	11/16	中国	12/ 2
近畿	11/25	中部	12/ 3
関東	11/26	東北	12/ 8
北海道	11/27	沖縄	1 /19

研修会では、受講者（まちづくり交付金未実施自治体職員）が、地域の目標に沿ったまちづくりを効果的に推進するため、都市再生整備計画（草案）を作成するなど、実務を考慮して戦略的に行ないました。

研修内容は国土交通省地方整備局職員を講師に迎え、まちづくり交付金の概要や留意点、まちづくりの成功事例紹介等の講義を行いました。

また、講習会終了後に希望自治体を募り、計画作成上の疑問点等に回答する個別相談会を実施しました。

受講者には事前に提出課題を設定するなどして、ややハードルの高い内容となりましたが、どの自治体職員も懸命に講義、個別相談会に取り組み実り多いものとなったようです。



講習会風景



個別相談会風景

今後は1月上旬から2月上旬にかけて、予め当機構に登録されている“まちづくり交付金コーディネーター”が全国60地区の自治体へ各2回往訪し、計画を策定する上での考え方の助言やまちづくりの成功事例の例示等を含めて、きめの細かい支援を行ってまいります。



§ 西富久地区第一種市街地再開発事業特定業務代行者選定委員会の開催

本再開発事業は、バブル期の地上げの影響を受けて空き家空き地が虫食い状に散在し、住環境の悪化により再整備が望まれている西富久地区において、住民主導によるまちづくりが進められ、次世代に継承する都市コミュニティの再生として、「良好な住環境」、「多世代が交流するコミュニティ」、「安全・安心なまちづくり」を目標としています。

当機構は、西富久地区市街地再開発組合が、西富久地区第一種市街地再開発事業において、民間企業の技術力、専門的ノウハウ、活力を一層活用するために、特定業務代行者選定業務（募集要項の作成及び選定委員会の運営等）を公平公正な第三者機関の立場として、取りまとめを行っております。

本選定業務においては、設計コンセプトである都市景観への対応、良質な都心立地、適切な維持管理、環境への配慮、災害時の居住継続性などに応じた学識経験者及び専門技術者に委員を委嘱し「西富久地区第一種市街地再開発事業特定業務代行者選定委員会」を設置し、第1回及び第2回委員会を開催いたしました。

今後、応募書類を審査基準に基づき評価し、円滑かつ確実にまちづくりの目標を達成できるように優秀な提案を選定いたします。

(安藤、樋口、立花)

【計画概要】

計画地：	東京都新宿区西富久町
区域面積：	約 2.6ha
敷地面積：	約 16,000㎡
延床面積：	約 149,600㎡
主な規模：	地上 54 階 / 地下 2 階
建物高さ：	約 180m(超高層住宅棟)
住宅戸数：	約 1,200 戸
駐車台数：	約 650 台

計画施設としては、南東側にファミリー世帯向けを主体とした超高層住宅棟、西側に商業業務施設を併設した中層の住宅（南側）及びペントハウス住宅（北側）の建設を計画しています。この他に施工区域にかかる区画道路や広場の整備を計画しています。



イメージパース（現時点）



配置図



§ 第12回 ACUUS 国際会議への参加

平成21年11月17日及び18日に、中国深圳（シンセン）で、第12回のACUUS国際会議が開かれ、地下研から黒川洸団長をはじめ15名からなる調査団が参加しました。その概要をご紹介します。

1 ACUUS とは

ACUUSとは、Associated research Centers for Urban Underground Space の略称で、都市地下空間に関する企画、運営、調査・研究、利用の各分野の関係者の協働を活発に促進している国際的・非政府組織です。具体的な活動として、2～3年に一度、都市地下空間に係る様々な分野の専門家を集めた国際会議を開催することを継続的に行っています。



五洲賓館での調査団の写真

今回の深圳での国際会議は、1983年にシドニー（オーストラリア）で第1回が開催されて以来、第12回目の会議になります。

2 会議の概要

今回の会議のテーマは、「都市の地下空間活用：調和のとれた持続可能な都市環境のために」でした。会議は2日間にわたって行われ、初日は午前には基調講演、午後には招待講演が行われました。招待講演の一つに日本の小早川洋太郎氏から「東京における大深度地下を利用した超高層複合ビルのコンセプト・プラン」と題した講演が行われ、大きな注目を集めました。この講演は20年度に地下研が受託して（委託者（株）森ビル）小早川さんが中心となって研究した成果に基づくものです。この日の夜に行われた歓迎の宴でも、小早川さんには多くの中国人参加者から昼の講演に関してさらに詳細な資料が欲しいとの申し出があったとお聞きしました。

二日目は、午前には、ACUUS国際会議に提出された論文発表が行われました。会議に提出された論文数は約100編で、うち48編が会議で発表されました。発表は、A地下空間利用と地下の交通、B地下空間における建築と計画、C安全管理と地下空間利用の規制、D地下プロジェクトの技術の4つのセッションに分かれて行われ、活発な質疑討論が行われました。Cセッションでは、黒川洸団長がChairmanを務められました。

日本からの発表論文と発表者は次の通りです。

A 地下空間利用と地下の交通

- ・東京八重洲地区の都市再生のための地下空間の活用に関する研究

池田勉氏（東京ガス）

- ・既存地下交通結節点の改善方策に関する基礎研究

藤本靖央氏（オオバ）



B 地下空間における建築と計画

- ・東京、マドリード、ビルバオにおける持続可能な都市のデザインと地下ネットワーク
大國道夫 氏（大國道夫都市建築総合研究所）
- ・大丸有地区駐車場地域ルールと駐車場ネットワーク 白根哲也 氏（三菱地所）
- ・都心部における「新たなネットワークの整序」について 西田幸夫 氏（東京理科大学）

C 安全管理と地下空間利用の規制

- ・日本における地下街開発と防災対策の経緯と今後の取り組み
阪井清志 氏（国土交通省）

午後には、ACUUSの総会が行われ、次回の国際会議は2012年にシンガポールで開催することなどを決定し、閉会しました。

最後に、技術見学プログラムとして、深圳地下鉄の駅に付属する地下街を見学しました。深圳の幹線道路である深南大道の下に購物公園駅から会展中心駅までの間、長さ660m、幅30mに渡って建設された大規模な地下街が建設されています。現在工事は最終段階にあり、ファッション関係や飲食店などのテナントを募集中とのこと。次に、地下鉄1号線を試乗し、会展中心駅から2駅目の香蜜湖駅まで戻ると、ここにも大規模な地下街が建設中でした。いずれの工事も立派な出来栄で中国建設業の実力を物語っています。

3 深圳会議雑感

会場となった五洲賓館は、深圳市政府が運営する国際会議場でASEAN会議も行われたという格式の高い会場でした。また、会議の主催者には、ACUUSのほかに深圳市政府、中国土木協会など7つの団体が名を連ね、中国側の官民一体での熱烈歓迎ぶりが伝わってきます。会議には、地元中国をはじめ、日本、アメリカ、韓国、カナダ、フランス、イタリア、ギリシャ、イランなどの各国から参加がありましたが、なんといっても中国からの、参加者数、論文提出数が圧倒的に多く（筆者の感じでは8～9割は中国か）、地元であることを考慮しても中国における地下利用に対する関心の高さが伺われます。

中国は今、猛烈な勢いで社会的固定資本形成を進めており、



深圳の建設中の地下街



広州新電視塔



広州珠江新城核心区広州市西塔438m



その中で地下空間の活用を極めて積極的に押し進めています。

調査団は帰路に、広州市の珠江新城核心区とその地下利用状況、上海市の副都心の一つである五角場の地下広場、上海南駅及び駅周辺の地下街、人民広場下の地下街、地下鉄駅などを見学してきましたが、いずれのプロジェクトも都市の環境を改善するために積極的に地下空間を活用しようとする強い姿勢が感じられます。翻って、我が国の地下利用の現状についていろいろ考えさせられる旅となりました。



五角場円環式交差点地下1層と高架道路の景観



五角場円環式交差点地下1層歩行者空間



上海南駅全景



上海人民広場下地下鉄コンコース



上海南駅地下街内部2層

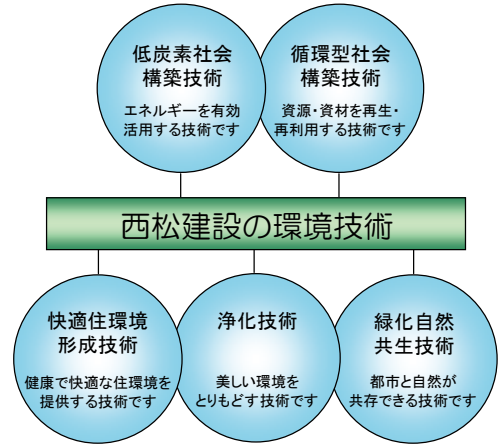


上海人民広場下地下街入口
サンクンガーデン



§ 会員紹介：西松建設株式会社 環境技術の開発と提案で快適なまちづくりに貢献します

西松建設は経営理念の一つとして「よりよい環境の創造と保全に向けて積極的に行動する」を掲げ、企業活動を通じて環境保全活動を推進し、社会貢献を目指しています。ここでは当社の5つの環境技術分野の中から、美しい環境をとりもどす「浄化技術」より、大気浄化システムの適用事例について紹介します。

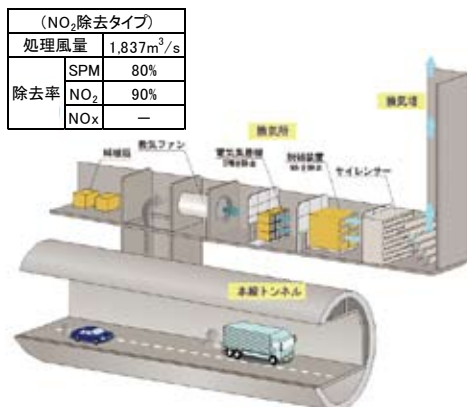


○道路トンネル換気所への適用○

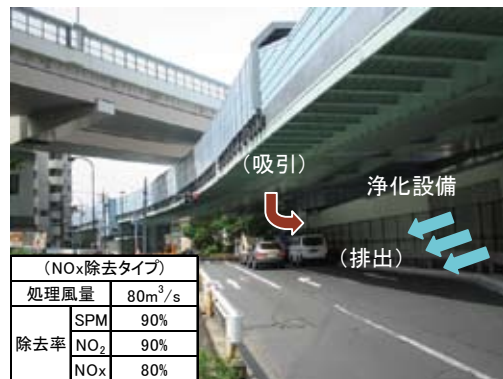
平成22年3月に開通する首都高中央環状線山手トンネル（渋谷線～新宿線）の換気所には、トンネル内空気に含まれる有害物質である浮遊粒子状物質SPMを80%以上、二酸化窒素NO₂を90%以上除去する大気浄化システム（NO₂除去タイプ）が設置されています。自動車排気ガスを含むトンネル内空気は、本システムで浄化され、高さ45mの換気塔からトンネル外へ排出されます。ひとに、街に、やさしい道路であるために、当社が独自に開発した脱硝技術が活かされています。

○沿道交差点への適用○

平成18年5月に全線開通した東京都環状第8号線の板橋相生陸橋には、陸橋シェルター内空気からSPMを90%以上、NO₂を90%以上、さらに窒素酸化物NO_xを80%以上除去する大気浄化システム（NO_x除去タイプ）が陸橋桁下空間に設置されています。当該交差点は、3層構造の立体交差となっており、道路周辺への大気環境負荷低減を目的に本システムが計画されたものです。供用後約4年が経過し、当社の環境技術が沿道環境の保全に貢献しています。



道路トンネル換気所への適用



沿道交差点への適用

問い合わせ先：西松建設（株）土木技術部 TEL：03-3502-0377
技術・環境ポータルサイト <http://www.e-besa.net/>



§ 機構の活動状況

日	12月	日	1月
2	東京都市大学と意見交換	5～	まちづくり交付金コーディネーター往訪支援
2	普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査意見交換会 (観光地、住宅地分野)	8	アミューズメント関係者と意見交換
7	データセンターの立地動向について関係者と意見交換	12	空港関係者と関西国際空港関連まちづくりについて 意見交換
7	まち交講習会(九州)	13	普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査(有識者懇談会)
8	群馬県上野村意見交換	14	「医療情報関連まちづくり」について関係者と意見 交換
11	広島市役所：土壌汚染関連ヒヤリング	26	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会
15～	まちづくり交付金コーディネーター往訪支援		
21	普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査意見交換会 (広域交通分野)		

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

9	八重洲・京橋・日本橋地区WG会	12	地下利活用分科会 W2 広島市
10	大阪分科会	13	地下利活用分科会 W2 シャレオ調査
		19	土木学会地下空間シンポジウム後援
		22	八重洲・京橋・日本橋地区 WG 会
		25	地下街耐震対策研究会
		26	企画運営小委員会
		26	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会
		27	大阪分科会

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

		19	企画運営委員会
		26	都市みらい・地下研・UIT 合同講演会

《まちづくり情報交流協議会》

10～	H21共同研究意向調査開始		
10～	H21 まちづくり情報交流協議会の活動に関する意向 調査開始		

(財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽3階
電話 03-5976-5860
FAX 03-5976-5858
Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・まちづくり交付金事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援 他